

●ISU の発表 (2004.02.16)

2004ISU 総会議案・新ジャッジングシステム

第 50 回 ISU 通常総会議案の第 1 号を ISU 加盟国に配布した。議案は最終的には 4 月中旬までに取りまとめ、2004 総会を 6 月 7-11 日にオランダ・Scheveningen の Kurhaus Hotel で開催する。ここは 1892 年に ISU が設立された場所である。

フィギュアスケートに関する採決の中で最大のものは、フィギュアスケート、アイスダンス、シンクロナイズドスケーティングにおける新ジャッジングシステムについてであろう。これは理事会及び 3 つの技術委員会が満場一致で提出したものである。

そこでは新ジャッジングシステムを、2006 オリンピックを含め、2004-05 以降の ISU 選手権大会、グランプリシリーズ(シニア・ジュニア)、国際競技会で使用することが提案されている。

新ジャッジングシステムの開発・試験を進めた 2 年の間に、2003 ネーベルホルントロフィと 2003 グランプリシリーズ(シニア)で使用されたこのシステムを改善するための有益な提案が、加盟国、スケーター、50 人以上のコーチその他から寄せられた。提出された改善案の多くは全部または一部が議案に取り入れられている。

グランプリシリーズで使用された新ジャッジングシステムは広範なコンピューター技術が要求される。総会で採択された場合には、すべての国際競技会で無理なく使用するために、PC を基本としたバージョンを開発し、ISU 加盟国が手ごろな費用で利用できるようにする。ソフトウェアは ISU が無料で提供する。国内・クラブの競技会で新ジャッジングシステムを使用するかは ISU 加盟国それぞれで決めればよい。

2004-05 に新ジャッジングシステムが採用された場合に新シーズンに間に合うようすべての ISU 審判を訓練するための経費は、ISU 理事会によって確認されている。

議案のすべては [www.isu.org](http://www.isu.org) から参照できる。

新ジャッジングシステムについて

新ジャッジングシステムは、2002 年 6 月の ISU 総会の決定に従って開発されたのであるが、研究は 2002 年 2 月から専門家が関わって始められ、2 年以上の間テストされてきた。これはフィギュアスケートのジャッジングにおける革命的な一歩である。スケーターはプログラムの各要素に対して定められた基準に従って点数を得る。点数は、各要素の演技の質について厳密な基準に従ったジャッジによる評価に基づき、加減される。ジャッジはまたプログラムの終りに音楽の解釈など演技の表現面に対して 5 つの点数を与える。プログラムに対する点数を加算し、最高点を得た者が勝利する。

新ジャッジングシステムの技術的な詳細や原理のすべては [www.isu.org](http://www.isu.org) から参照できる。点数については通知 1207、通知 1224 を、ジャッジの評価については通知 1238 を、シンクロナイズドスケーティングについては通知 1242 を見よ。

## ジャッジの匿名性

2004ISU 総会のフィギュアスケート部会で新ジャッジングシステムが採択された場合にジャッジの採点を匿名のままにすべきかどうかについて、議論が続いていることを ISU は認識している。

ジャッジの採点を明確に見分けることができる限り、外部からの圧力や影響によるリスクが不可避に存在することは事実である。圧力は、あるいはそれとなく、あるいは公然と加えられるかもしれないし、それに対する応答も、あるいは意識的に、あるいは無意識に行われるかもしれない。競技前、競技中、そして競技後も匿名にすることで、ジャッジが外部からの圧力の影響を受けるリスクを減らす。これは管理しないというわけではなく、むしろ新システムによってジャッジの行いに対する評価はより綿密になるだろう。

以前のジャッジングシステムと評価の方法では、何年もの間繰り返し起こったジャッジングの問題、その最たるものが 2002 オリンピックのペア競技を取り巻いた論争であるが、これらを防いだり、是正したりするには不十分であることがわかった。

これを踏まえて、カナダの提案により暫定的システム、すなわち伝統的な 6.0 システムと新ジャッジングシステムの間に当たるものが、2002ISU 総会で作成された。現在 ISU 選手権大会で使用している「暫定的ジャッジングシステム」に匿名ジャッジングを採用することは、フィギュアスケート部会において賛成 39 票で承認された。この方法に反対したのはわずか 8 カ国であった。

ISU 理事会が責任を十分に果たすために必要な手段を講じていることも加えておかねばならない。その手続き(通知 1238 参照)は以前よりもはるかに効果的で民主的である。2002-03 シーズンの評価手順はすべて終えており、調査結果は通知 1217 として発行されている。2003-04 シーズンの評価は手続きを進めている最中で、その結果は出来次第発行する予定である。

公平なジャッジングを保証するためには、公衆やメディアによってすぐに吟味されるというプレッシャーが必要だという議論がある。(何か批判しようとしているわけではないが、)観衆やメディアの客観性や技術的な知識は競技会によって異なり、また会場やメディアからの圧力が必ずしも公平なジャッジングに役立っていないことが以前のジャッジングシステムの経験から明らかである、ということをおかねばならない。

匿名にすることでジャッジは、自国連盟や父兄、コーチ、母国のメディア、選手、他のジャッジからのあらゆるプレッシャーから解放され、選手を客観的に評価できる。ジャッジは、検査可能な電子記録を残していることで、重大な誤りや偏見がないか比較評価されることを知っている。

新ジャッジングシステムの下では、テクニカルスペシャリストとテクニカルコントローラーが判定する要素の価値が各選手の合計点の実質的な基礎を成しているのだから、匿名ジャッジングはもはや必要ではないと主張するものがある。それでも、要素の演技の質とプログラム構成要素に対するジャッジの採点は、合計点の大部分を占めている。2人・組が同じような技術水準であれば、ジャッジの採点が決定的な要因になりうる。こうした理由から、総会議案の新ジャッジングシステムではジャッジの採点を匿名のままにすることが記されているのである。

しかしながら、新ジャッジングシステムの利点の1つに、多くの点数に基づくさまざまな統計記録による幅広い評価ができるということが断言されている。そうした客観的な統計分析は以前の6.0システム、暫定的ジャッジングシステムでは不可能である。